

THE Official Journal of the JARL QRP CLUB
現在会員数 : 270 人

(JARL 登録番号 11-4-15)



QRP NEWS

小さなパワーで大きな感動
QRP: Small Power, Big Dreams!

Vol.10 February 2009

PRESIDENT	JH1FCZ
VICE PRESIDENT	JA1KGW
SECRETARY-GENERAL	7L3DNX
TREASURER MANAGER	JR3ELR
AUDITOR	JA9CZJ
AUDITOR	JR7HAN

Contents

1. Topics/巻頭言.....	P-1
2. 特集: Total Power Competition 2009.....	P-2
3. 世界のQRP会報とJQRP.....	P-9
4. 会報に関してのはがきアンケートのお願い.....	P-10
5. QRP で遊ぼう(楽しい QRP).....	P-11
6. 会員のQSL紹介.....	P-13
7. アワード紹介.....	P-13
8. コンテスト通信.....	P-14
9. JARL QRP CLUB 役員構成図.....	P-15
10. QRP な DX の世界から.....	P-16
11. DX 短信.....	P-16
12. 古炉奈通信(懇親会顛末記).....	P-17
13. 会員通信.....	P-18
14. 役員便り.....	P-21
15. QRP 懇親会のご案内.....	P-22
16. 編集後記.....	P-22

Topics

- 1) 今月は「Total Power Competition2009」の特集です。(P-2~8)
- 2) 「世界のQRP会報とJQRP」と題してQRP NEWS季刊・各月刊化の緊急提案がありました。(P-9)
- 3) また、役員会からは、「会報に関してのはがきアンケート」を会員の皆さんへお願いしています。(P-10)
- 4) コンテスト担当スタッフをJF6LIU/1 富樫さんに引き受けていただけることになりました。来年度よりパトタッチいたしますが、今後は今までにないユニークなコンテストが開催されることになるでしょう。皆さんの参加を期待しています。(P-14,15)

巻頭言

会長

JH1FCZ 大久保 忠

OKUBO Tadashi



昨年 12 月にお配りした、JARL QRP CLUB DATA BOOK 2008-2009 に編集ミスがあり皆様方大変ご迷惑をおかけしましたが、先日改訂版として6ページ分(3枚)お送り致しましたので所定のページを差し換えて頂くようお願い致します。

誠に申し訳ありませんでした。

さて、今月号には、JL1KRA 中島さんから本クラブの運用、特に会報の発行について抜本的な改善案が投稿されています。(9 ページ)

私たちのクラブでは、先期の会則改定により役員の数も低減されました。そのため従来通りの運営をしようとする役員が負担が大きくなって私生活を脅かす恐れがあるというので期のはじめから極力役員の仕事量を少なくしようと考えていました。しかし、どうしても従来の運営方法を基礎にもの考える体質から抜け出られないものですね。このことは特にエネルギー消費量の大きい「会報担当役員」の席がなくなったのは痛かったです。

これらの事を克服しようと会の運営に協力して頂く方々に手をあげて頂きそれなりの業績はあげて参りましたが、基本的な構造の改革がなされないままでは所詮限界があるというものでした。

また、会報に対する会の皆さんの反応も非常に薄いものでした。私生活を犠牲にしてまでも発行をつづけて来た担当にとって、「反応がない」ということは非常に辛い事です。それなら会員が読みたいような会報を発行すべきでしょう。しかし、それがどんなものであるか反応をしてくれる人もなかったのです。この事を突き詰めていくと「会報なんて要らないのではないか」とも考えたくなります。

世の中の発展に伴い、クラブの運営形態も必然的に変化していかなければいけないでしょうが、この中島さんの改善案を読んで私たちは旧態依然として古い体質のままこのクラブの、特に会報に対する認識において運営して来たように改めて目を覚まされた思いです。

役員会では今期のはじめに「クラブの改革をしよう」ということをもうしあげ、そして今期を「試行錯誤の年」と位置づけてきました。中島さんの提案は私たち役員の中で見いだす事のできなかった改革を的確に指摘していると思いました。

皆さんも是非この提案をお読みになって、これからの会のあり方を踏まえて賛成、反対、あるいは対案となるご意見を是非別送のはがきでご投稿願いたいと思います。それらのご意見をもとに「会員のための会報」としての「試行錯誤」をしていきたいと考えています。

特集: Total Power Competition 2009

TP コンペティション担当
JL1KRA 中島 潤一
JUNICHI NAKAJIMA



QRP TP コンペティションスタッフ報告

JL1KRA 中島 潤一
JUNICHI NAKAJIMA

■参加者からの報告について

さて、早速始まりました TP コンペティション、今月は JH1FCZ 大久保会長、JH7KYD/1 影山さん、JA9CZJ 松盛さんから現在の取り組みや測定法について原稿をいただきました。ありがとうございます。チキチキマシン猛レースならハンサム V9 に相当しそうな影山さん自慢のマシン、コンペで出される km/TPW 成果に興味深々です。また言いだっしっぺにして優勝を企む大久保会長はブラック魔王といったところでしょうか、絞ぼりに絞った“ゼロゼロマシン”の整備に余念がありません。でも、企みが成功するかはこれからです。あなたの挑戦が真空管リグならば“ガンセキオープン”、松盛さんの交流測定法をよく勉強してください。その他“ポッポ SL”のようなジャンクが見紛うユニークな自作機が各方面で準備中、一見市販の“ギャングセブン”やいざとなったらお化けも見方する“ヒュードロクーペ”が現れるかもしれません。



©WarnerBros.

次はメールで頂いた報告のトップバッターをご紹介します。

JG7BBO 局 対馬さん

- ①日時 2009/01/02 15:06
- ②自局コール JG7BBO (QTH 北津軽郡板柳町)
- ③相手コール JR7AGI (QTH 青森市)
- ④RS 交換 My 53 Ur 57
- ⑤距離 32km
- ⑥使用リグ AITEC TR-2 (TP ハンディキャップ 0.43)
- ⑦アンテナ GP
- ⑧達成 km/TPW 13.76

メーターの照明や LED をはずして消費電力を下げてみましたがまだまだです。送・受信切替のルーを無電源(手動)にかえて、パワーを下げて(現在は 9V の電源で 150mW も出ています)TP を抑えようと思います。配布いただいた水晶で 10mW の送信機と超再生方式の受信機を製作中です。また、アンテナも雪が消えたら整備する予定です。私としては 100km/TPW (ハンディキャップ 1 のトランシーバーの製作と 100km の交信)を目標にがんばりたいと思っています。

AITEC TR-2 は今となっては入手が困難かもしれませんが、TP 向上の改造ベースになりそうなキットです。また、実

際に TP で計ってみるといつもの 144MHz での QSO も俄然違った気分になることがお分かりいただけたかかと思えます。私も最初は自分のリグの TP ハンディキャップや km/TPW にながかりしましたが、落ち込んでばかりもいられません。対馬さん、ご報告ありがとうございました。今後の記録アップをお互い狙いましょう。

また測定用抵抗の申し込みにあわせコメントを頂いていきますのでご紹介いたします。

JF2TWY 局 畝山さん

QRP NEWS1月号の「TP コンセプトのおもしろさ」や大久保さんのアドバイスに刺激を受け、参加を決意しました。製作記事の追試レベルで勝算は何もありませんが、とにかくトライしてみます。賞を狙うというより、試行錯誤を楽しみたいと考えています。

参加表明をありがとうございました。こっそり自分の勝算を作る作戦が追って書いてありますので、最初から諦めないでください。書かれているとおり VHF の DX 通信は相手局とのめぐり合わせもあり、とにかくトライしてみることが大切のようです。ブラック魔王に負けない悪巧みをお願いいたします。もちろん成功だけではなく失敗の報告も歓迎です。



©WarnerBros.

■ TP コンペの進め方について

(1) エントリー表明と最終エントリーの方法

エントリー表明や途中報告は自由に随時メールなどでスタッフまでお送りください。144MHz の FM では何回も移動して QRV しながら記録が伸びるチャンスが増えると思います。最終エントリーはさわめて簡単、先月ご紹介の TPW 計算方法に従って計算し、今月号で添付のエントリーフォームを埋めていただくだけです。どなたでも 30 分もあれば記入できるかとおもいます。エントリーフォームは手書きでかまいません。ただしデジカメ画像を貼り付けなど便利のため Word、PDF のファイルを QRP-ML のフォルダなどに今後置いておきます。メールでスタッフ

(mx6s@yahoo.co.jp)にご請求いただいてもかまいません。できれば、簡潔にコメントを作成頂き、この部分は自動翻訳などで英語にして貼り付けてください。最終エントリーは覚えやすい 2009 年 8 月 15 日といたします。この日までにスタッフに必着、メールによる添付でのエントリーとしてください。2009 年ハムフェアでは皆様のエントリーフォームを並べて貼り出し、順位発表、エントリーフォームを束ねて後日冊子作成、参加者に配布という簡単明瞭な段取りになっております。

(2) TP コンペの表彰について

賞については参加者全員へもれなく参加賞が予定されていますが、特賞として優勝、準優勝、3 位を設けます。紳士ルールの TP コンペですが km/TPW 記録上位入賞を狙う方は、km/TPW 記録が競って、もの言いとなるやもしれず、正確に測定し、エビデンス(無線機、ログ等)を確保しておいてください。また、ブービー賞、TP1W 以下最遠距離交信賞、ユニーク回路賞、真空管賞、QRV 工夫チャレンジ賞、市販ハンディ機賞、などの賞も設けます。その他も募集し

ますので各局から賞をご提案下さい。これもメール等でお願ひします。

(3)TP コンペへの疑問・ご意見について

影山さんから今回の原稿で TP コンペティションの経緯が分かりにくいというご意見を頂いています。私もスタッフを引く受けたものの、1000kmTPW 賞との関係が分かり難い状況がありました。また、何故 145MHz なのか、クリスタルは何故周波数がバラバラなのか、これで国際的な周知が出来るのかですが、まずはさておき、欲張りすぎず TP コンペは TP コンペとして我々が気軽に楽しめようということにしたいとお願ひいたします。

TP コンペティションにおける TP 電力測定法は 1000kmTPW アワードを流用します。しかし 144MHz で隣町と QSO して緯度経度から距離を求めるといのも大げさです。エントリーフォーマットでは距離計測は簡単な申告に緩和しました。もちろん、もし 1000kmTPW を VHF で達成する人が現れればアワードも申請することが可能です。

クリスタル 145MHz は会長の在庫提供をきっかけに、HF 帯だけに固執せず VHF 以上へも色々トライしようということかと思ひます。EQT-1 のように優秀機がキット化されれば、先々は FCZ ボケトラのように周波数の統一もありましょう。国際的にはエントリーフォームを海外局も読めるようにして我々の TP に向けた工夫や活動を PR しようということでは整理いたしました。

有名な駅伝や世界競技でも起源をたどれば、誰かが呼びかけ、面白そうだから競ってみようという草レースだそうです。TP コンペティション 2009 もまさにこの段階ですから、あまり完全なものを求めず参加していただければと思ひます。引き続きご意見コメントがあればご遠慮なくお送り下さい。



TP 実験記 その1 送信機
JH1FCZ 大久保 忠

送信機の省力化 km/トータルパワーコンペティションというのは、交信した距離を送信機と受信機の消費電力の合計で割った数を競うものです。ですからこの競技に勝つためには送信機と受信機の消費電力を出来るだけ小さく

たいものです。

送信機の実験 そこで送信機の省力化について実験してみました。

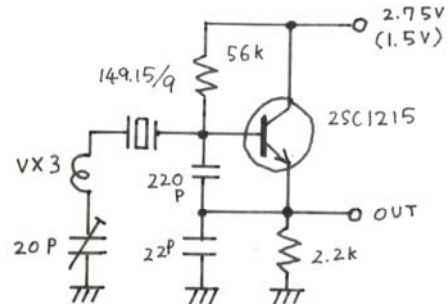
送信機の省力化の決め手は、まず半導体を使う事になると思ひます。もし真空管を使うとなるとヒーター電力も消費電力に加算されるためです。しかし、真空管を使ってもここまで省力化出来るんだという意味での参加も、それはそれで面白いものだと思います。皆さんのアイデアでいろいろな意味での省力化を期待しています。

発振器 送信機の心臓部は発振器です。いかにして発振器の電力を小さくするかということが最初の関門となります。

まず考えられる事は、自れい発振器です。FM 変調も簡単に掛けられて省力化という意味からは有利ですが、周波数の変動と言う問題を含んでいます。ここでは無難な所で水晶発振子を使う事にしました。省力化という意味からはオーバートーン発振が良さそうですが、問題は周波数の安定性が良いため変調が簡単にはかからないという難点があります。

結論として、144MHz の 1/9 の周波数を VXO で発振させて、これをてい倍をして 144MHz を得ようと思ひました。

はじめに考えた回路 は第 1 図のようなものです。



(第 1 図)

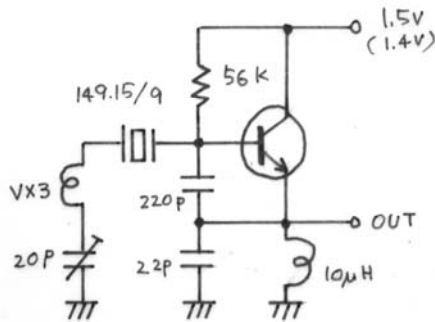
水晶発振子は 149.15MHz で、基本波がその 1/9 というものが手元にあつたのでとりあえずそれを使用しました。周波数的にはオフバンドしていますが回路が確定した段階で水晶を換えれば良い事なので実験はそのまま続けました。なお、説明上周波数に関しては、基本波 16MHz、3 てい倍 48MHz、9 てい倍 144MHz で話をつづけます。

この回路はうまく発振してくれました。そのときのデータは、電源電圧 2.75V、電流 0.65mA、消費電力 1.79mW というものでした。

2006 年に 50MHz AM 機を富士山に担ぎ上げたときの記録では受信機分を含めての総消費電力が、2.703mW でしたから、発振段だけで 1.79mW というのでは消費電力が大き過ぎます。そこで電圧を富士山のときと同じ 1.5V に下げましたが、残念乍ら発振が止まってしまいました。

1.5V と 1.4V 省力化ということを考えると、なんとして電源電圧は 1.5V にしたいものです。

第 1 図のエミッタ抵抗 2.2kΩ を第 2 図のように 10μH の RFC と交換してみました。その結果、1.5V でも立派に発振してくれましたし、なによりデータとして、電源電圧:1.5V、電流:0.65mA、消費電力:0.975mW と 1mW を下回ることに成功しました。



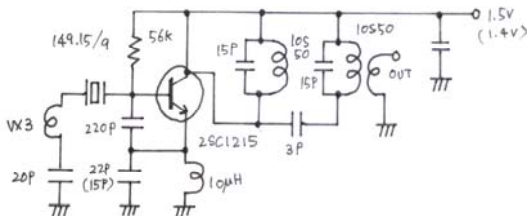
(第2図)

このときの実験は単 3 のアルカリ乾電池を使っていたのですが、回路をバラック配線でやっていたため、誤って電池をショートしてしまい、電池が温かくなってしまって電圧も 1.4V に下がってしまいました。

電源電圧を 1.4V のままでデータを取ってみると、電源電圧:1.4V、電流:0.53mAと、消費電力は 0.742mW まで下がりました。

この 1.5V と 1.4V の 0.1V の違いで消費電力は大きく変わるものですね。その後電池の電圧は徐々に復活して 1.48V までになりましたが、送信機や受信機がちゃんと働くようになったら、使いかけの電池で 1.4V のものを探す事になりそうです。

3 倍成分を取り出す 基本波が 16MHz ですから、第 1 段階として 3 倍する必要がある。第 2 図の回路ではコレクタは電源に直結していましたが、ここに第 3 図のように FCZ 10S50 と 15pF のコンデンサを入れて見ました。それまでの出力のスペクトラムは基本波が一番強いものですが、この共振回路を入れる事によって 48MHz 台が一番強くなりました。



(第3図)

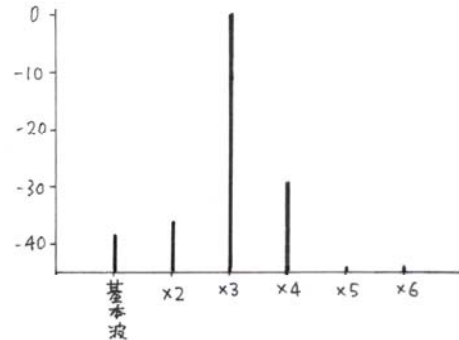
この段階でもう少し 48MHz 台とそのほかの周波数のレベルの差が大きく取れば特に 3 倍器をもうける必要がなくなります。そこで 3pF のコンデンサを介してもう 1 段共振回路を設けました。その結果は、第 4 図のようなスペクトラムにする事ができました。ここまでくればこの信号を 3 倍して 144MHz を作る事ができそうです。

ここで紹介したスペクトルはスペアナで観測したのですが、スペアナの入力は原則的に 50Ω です。直接発振回路にスペアナをつなげば多分発振は止まってしまいます。そこで 3pF のカップリングコンデンサを内装したプローブを使って観察しました。このプローブはハイインピーダンスの箇所の観察には便利なものです。

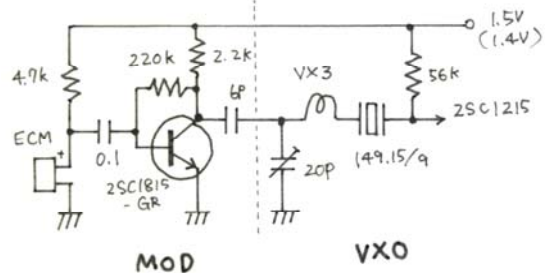
FM 変調回路 発振器が VX0 になっていますから変調は簡単に掛るはず。

第 5 図のような回路の信号を 48MHz のモニターで聞い

てみると変調がかかっている事を確認しました。このときの発振段、変調器の合計消費電力のデータは、電源電圧:1.48V、電流:1.18mA、消費電力 1.746mW でした。



(第4図)



(第5図)

ECM の消費電力 普通、マイクロホンで消費する電力なんて考えてもみない事が多いですが、ECM に 4.7kΩ の抵抗をシリーズに入れ、1.48V でどれだけ電力を消費するか試してみました。その結果は 0.27mA で、消費電力が実に 0.405mW にもなっている事がわかりました。

発振段と変調器の合わせた消費電力が 1.746mW である事を考えると、0.405mW というのは大きい数字ですね。いずれ対策を講じる事になると思います。

AM の受信機で聞く FM の変調実験をしていたときです。試しにモードを AM にして聞いてみました。するとスピーカから FM で聞いていたときより大きな声で自分の声が聞こえてきました。この事から特に FM 検波器を作らなくても AM 検波器によるスロープ検波で立派に役立ちそうな気がしてきました。

ここまでの実験から このあとに 3 倍器と終段をつければなんと TP=3mW 程度の送信機になりそうな所までできました。しかし、この話を最後まで書いてしまうと私自身がこのコンペに勝てなくなりそうなのでこのあとの回路は皆さんで考えて見てください。Hi。

来月号では受信機について考えてみたいと思います。なお、この実験の詳細について

<<http://www.fcz-lab.com/cirq.html>> の CirQ 031 号に記事を予定しておりますので感心のある方は参考にしてください。



©WarnerBros.

Total Power Competition 2009 用の道具

JH7KYD 影山 政利
KAGEYAMA MASATOSHI

今回の企画は当クラブオリジナルの QRP 達成指標を世界に向けて発信するための布石とアナウンスされているものの、対象バンドを 145MHz 帯としており、参加喚起の水晶配布も 1 波であることなど、電波伝搬特性や交信形態などを考慮すると、多くの追加説明が成された現在でもその意図を理解しかねています。しかしハムフェア用の企画という側面もあり、異を唱える前にコンペティション用の道具をそろえてみることにしました。

km / Total Power の思想は当クラブのオリジナルであり、先頃配布された JARL QRP CLUB DATA BOOK 2008-2009 には省略されていますが、既に実績もあり、50 周年記念誌の 98~99 ページに最新と思われる記録を見ることができます。余談ですが、準則第 13 条に則って DATA BOOK にもこれらのデータを掲載するべきだったろうと思います。

このデータリストによると、現在のチャンピオン記録は JA1XB 石井氏が 7MHz CW で達成した 410,000 km / TP となっています。そして驚くべきはその消費電力で、何と 0.96mW という驚異的な値です。先月号で JL1KRA 中島氏より提案された TP ハンデキャップに置き換えると、その係数は 1041.7 という驚くべき値となります。バンドやモードの優位性を超越したものすごい値で、現在の私の技術力ではただ唾然とするばかりですが、とにかく試してみました。

まずは受信機です。支給がアナウンスされている水晶は 1 個であり、対象モードが FM ですから、これを受信機側や送受共通部に使用する良案は思いつきませんでした。一方、消費電力を抑えるためには「能動素子が少ない構成ほど望ましい」という結論に至り、思い当たった受信形式は超再生でした。この方式は 50MHz 帯の AM 受信などで製作例が多数報告されていますが、FM 受信も可能であるとされています。専門書の中には FM 放送を対象とした製作例もあり、AF AMP を除けば 1 個の能動素子で賄えるわけですから早速模倣してみました。FM 検波が可能かは半信半疑でしたので、まずは FM 放送をターゲットにして製作したところ、具合のよいアンテナさえ用意すればキチンとした受信音声になることが確認できました。気をよくして 145MHz 帯に変更してみると、確かに聞こえるものの選択度がまるでありません。同調部を LC の C 可変としましたので、選局用バリコンの可変範囲を縮小するためにローターをむしり取ったり、微妙な選局を実現するためにパーニアダイヤルを付加したりしてみました。無駄な努力でした。測定によって得られた選択度は無いに等しく、2MHz もある 145MHz 帯が一度に聞こえてきそうな勢いです。これより C の可変による選局は無意味となりましたので、クエンチング発振レベルを可変することで何とか選局が適っています。20kHz ステップでチャンネル化されている 145MHz 帯の FM アマチュアバンドにおいて、このような受信機が実用になるかは大いに疑問ですが、電源電圧 3.1V で消費電流が 1.91mA ですから、交信が成立すれば大きな戦闘力となるでしょう。



145MHz 超再生受信機

次は送信機です。ここでも能動素子の数量を抑えることは必須ですが、目標出力は交信機会に影響しますので、やがて検討することになるアンテナやロケーションに多くを依存するとしても、10mW くらいは確保したいと考えました。145MHz 帯の信号は、16MHz 帯の水晶発振を 3 通倍 → 3 通倍して作り出すのが適当と考え、これを形にしました。2SC1906 を 2 個使えば簡単に 145MHz 帯の信号が得られます。これに 2SC1815 による MIC AMP を介して水晶+バリキャップを変調すれば、立派な FM 波となりました。しかし電源電圧を 3V 程度とすると、その出力は -10dBm がやっとなで、これにもう 1 段 2SC1906 を加えても、電源電圧を 3V に抑えたままですと約 0dBm (1mW) 止まりで目標の 10dBm (10mW) には届きません。いくらかの試行錯誤を繰り返しましたが、デバイスを変更した実験までは踏み込めず、電源電圧を 9V にアップすることで目標出力を得ました。このときの消費電流は約 14mA です。この送信機の水晶体は、支給を受けた方と条件を同じにすべく 1 個のみ使用しています。可変することも容易ですが、十分な選択度が得られない受信機との組み合わせではキャリアレーションも適わず、むしろ可変することが運用の弊害となると予測されますので、あえてスポット周波数としています。なお、スポット周波数は、できるだけ呼出周波数に近いほうが交信機会の増加につながるの思い込みから、145.020MHz としています。



145.020MHz スポット FM 送信機

以上の結果、受信電力 = $3.1 \times 0.00191 = 5.921\text{mW}$ 、送信電力 = $9.0 \times 0.014 = 126\text{mW}$ 、合計約 132mW ですから、TP

ハンデキャップは 7.58 です。送信用電源電圧を 9V にしたことが響いて TP ハンデキャップが 10 に届いていません。また、超再生受信機やスポット送信機が、どれほどの交信機会に恵まれるかは甚だ疑問ですので、もう少し実交信に即した道具を用意すべく、前提条件にとられないタイプを現在実験中です。

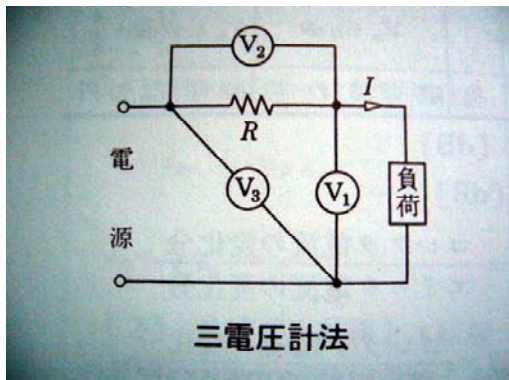


実験中の新セット

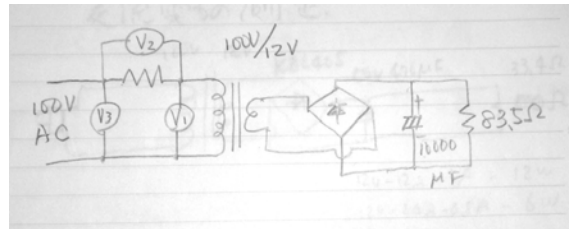
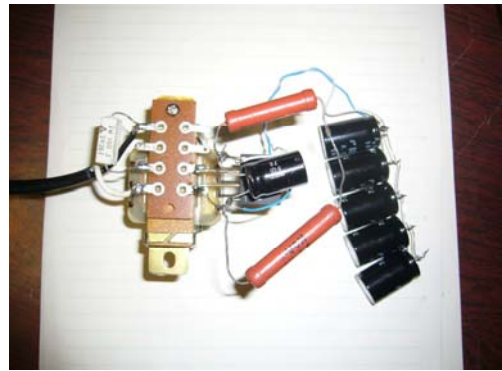
交流電力の測定方法についての実験結果
 JA9CZJ 松盛 裕吉
 Matsumori HIROKICHI

当クラブのアワードに 1000km/total power 賞がありますし、また、今年のクラブのコンペティションとして 144MHz FM での交信記録を競うものがありますが、直流である電池を使用する場合は、テスターの内部抵抗に注意すれば比較的簡単なのですが、交流電源を使用する場合は一般に力率という厄介な問題が生じてきて簡単ではありません。すなわち、普通にテスターで計れるのは有効電力(W)でなく、皮相電力(VA)なのです。

この事を会長にこっそりと指摘したつもりが、松盛が解説しなさいとこちらに跳ね返ってきました。教科書的には図に示すように 3 電圧計法(3 電流計法もあります)で測定できるというのですが、現実にはそれなりの正確さで計れるものか実験してみました。



3 電圧計法
 3 電圧計法の電力は、 $P=(V_3^2 - V_2^2 - V_1^2) / 2R$ [W]
 (V_3 の 2 乗マイナス V_2 の 2 乗マイナス V_3 の 2 乗) 割る $2R$ で計算できます。実験回路と写真を示します。



実験過程を書くとなると長くなるので、得られた結論を述べますと、教科書的な方法では消費電力自体が小さいことから、電源電圧の変動、テスターの精度の問題もあり、1 回目の測定で 4.0W 2 回目の測定では 5.1W という結果になり、とても実用的ではありませんでした。そこで、交流の消費電力の測定では、図のように抵抗を挿入して入力電流を計算で求め、単純に電流×電圧としてこれを事実上の電力(W)と見なすしかなさそうです。なを、抵抗値は、10ワット程度の負荷の場合、5Ωから 10Ω程度で、抵抗に発生する電圧が 1 ボルト以内なら誤差が無視できますし、交流電流の測れるテスターなら抵抗が不要であることは言うまでもありません。

真空管式のリグでチャレンジする局は商用電源の使用が普通としても、半導体式のリグの場合はフツ時には商用電源を使用していても、いよいよ交信記録に挑戦というときに電池に切り替えた方が良さそうです。

商用電源に関する測定は、感電や回路の短絡など危険を伴いますから、空中配線などはさけて、端子に半田付けするなど固定してから測定しましょう。



Total Power Competition 2009 (144MHz FM mode) Entry Form

SAMPLE

ハムフェアで張り出すので、大きな文字で書いてください

		6	5
--	--	---	---

km/Total Power Watt is achieved by

J	L	1	K	R	A
---	---	---	---	---	---

Athlete Name JUNICHI NAKAJIMA

Date and Time 00 / JUL /2009 12 :34 my QTH Yokohama-city

Station Worked 8J1VLP/1 his QTH Mt.Tsukuba

RS report His 55 My 41 Distance 93.7 km

Transceiver ALINCO DJ-C7

3.7 V 305 mA on TX, 3.7 V 84 mA on RX, TPW- handicap 0.69

Antenna 1/4 mobile whip

Detail of TP challenge (in English if possible, photo and figures are welcome)


Though good TPW was expected by the QRP DJ-C7, measured power consumption was bigger than its specification. At least I would like to achieve 100km/TPW. A Yagi beam and good location will be my next challenges.

QRP ハンディ機の DJ-C7 なら TPW でいい成績が出ると思ったのですが、測った消費電力がカタログ値より大きく残念でした。今回は最低 100km/TPW を狙います。移動運用で八木アンテナを使って挑戦してみます。

↑

リグの画像、運用風景など歓迎

Web の自動翻訳サイト <http://www.excite.co.jp/world/> を使ってコメントを英文にする。



Total Power Competition 2009 (144MHz FM mode) Entry Form

--	--	--	--

km/Total Power Watt
is achieved by

--	--	--	--	--	--

Athlete Name

Date and Time / / : my QTH

Station Worked his QTH

RS report His My Distance km

Transceiver

V mA on TX, V mA on RX, TPW- handicap

Antenna

Detail of TP challenge (in English if possible, photo and figures are welcome)

世界の QRP 会報と JQRP ～QRP NEWS 季刊・隔月化の緊急提案～

JL1KRA 中島潤一



世界的に QRP クラブを見た場合、no membership, no due つまり会員制なし会費義務なし、会報なしが主流になりつつあります。これは参加したい人が集まり、自発的にプロジェクトを起こし QRP の本質的なところをより深く追求しようとする方向性です。Norcal や NJ-QRP も以前は会員制があり 1000 部近い発行部数を誇った QRPp や QRP homebrewer といった会報がありましたが、両クラブが AmQRP として連合後、最後に会費はなくなり会報は廃止されました。これはひとえに IT による情報革命で情報の流通コストがゼロになり会員制と会報の意義が低下したからです。中小規模のクラブにとって会員台帳や資金管理、催事計画に加え会報発行は想像以上の大きなオーバーヘッドです。10 年前ならクラブ会員になって会報を受け取るのが唯一の情報共有手段で意味がありました。しかし今や Yahoo Group で特定の QRP トピックについてのグループが即時形成可能です。目的意識に燃えた QRP 仲間が世界から集まり、質の高い QRP 無線機開発までリアルタイム進行で実現する世界になっています。例えば先月号で紹介した廉価 14MHz SSB 無線機(BITX20A)では、インド、米国、オランダ、スーダンの QRPer と情報を交換しながら、JA から contribution が可能でした。このような場では役員や、会員サービスといった考えはなく、少しでもプロジェクトに参加することだけが自己証明になるので自ずと活力があふれてきます。

では会員制のクラブのメリットは何でしょうか。旧来型の会員制度を保っているところとして、米国の QRP-ARCI や英国の G-QRP があります。これらクラブでは会報が 3 か月に一度の季刊で発行されています。ARCI はデイトンで FDIM などの大きなイベントを主催しています。年間イベントを責任もって主催するクラブなら、ある程度の組織形態があったほうが好ましいと思われます。ARCI の会報の QRP Quarterly (写真 1) は上記したネット上のプロジェクトのレビュー、その時々の QRP トピックを厚い冊子でアーカイブしていますので会員になり購読する価値を感じます。GQRP の会報 SPRAT (写真 2) は欧州圏を広域にカバーし、シンプルかつ興味深い QRP 技術的取り組みを紹介しています。SPRAT には手書きの回路図なども多く、まだネット環境にない東欧やロシアの QRPer を含め、紙ベースの情報交換を楽しんでいる様子が伝わってきます。DX レポートや会員短信などもお国柄を感じ、読んでいて楽しいものです。サイズは小さくても、作ることにこだわった濃密な内容には飽きることなく、毎号受け取るとカバンの中に入れ、電車の中で繰り返し読んで楽しむことができます。

一方 J-QRP ですが会報 QRP NEWS の内容は秀逸で網羅的、他国の QRP 誌に比較して負けないクオリティである

ものの、残念ながら毎月発行であるため内容が希釈化し、編集関係者にも大きな負荷となっているようです。以前入会していた時は編集のプロである JH7KYD/1 影山さんが献身的にサポートをされていたが、そのような幸運に長く依存しすぎたのではないのでしょうか。そこで、私は QRP NEWS を季刊(または隔月)とすることを強く提案します。それぞれの号は記事の内容を充実し、読みごたえのある保存版となるように、また QRP の裾野を広げるため頒布も可能な冊子に仕上げることも提案します。細切れの記事でなければ編集もページ単位と簡単になり、イベント予定などもより計画的に考えるようになると思います。

ハムフェアの開催される東京ビックサイトでは、コミックマーケットという有名イベントがあります。長らくマンガ同人誌の販売会だと思っていたのですが、知人が出展しているのを見ると、サブカルチャーからアキバ情報、デジタル系電子工作まであらゆる自主研究が冊子化されています。そのマニアックな主旨やコンテンツが話題を呼べば、見知らぬ人も気軽に一冊千円程度で購入してゆくそうです。では JQRP の会報を一冊取り出したとき、ハムフェアで他のアマチュアが購入したくなるような、入会したくなるような構成になっているでしょうか。会員の寄稿した珠玉の機器製作や運用テクニックが紹介されながら、現状の会報はなぜか毎月発行だけが目的化し、第三者やニューカマーに対して QRP の裾野を増やすことには役立っていないように思われます。毎月という内容の分割損により、編集する側も考える余裕なく、加えて忙しいだけという悪循環に陥っているようです。

今回クラブに再入会して一番驚いたことは、編集関係者が 2 代(3 代?) 続けてもう無理だと苦しうに悲鳴をあげながら、未だに以前の延長線で毎月発行をつづけているように見えることです。一旦仕事を請け負えば責任感ある担当者ほど言い出しにくいものです。JQRP クラブ会員は、時代の変化や海外のクラブも参考に、機を察し会報のあり方を考え、担当者がダウンする前に緊急に見直しを行うべきです。JARL ニュースですら季刊になっている時代になぜ QRP NEWS だけが毎月なのでしょう。

毎月相当の人的資源や送料を浪費して内容の細切れになった会報を義務感で発行するよりは、こういった内容の QRP の特集本が欲しい、QRP の面白さを伝える入門書を作ろう、というような編集会議を伴って企画分担し、読み応えのあるバイブル的な冊子をしかるべき間隔で作成するのが、QRP を楽しみ発展させ、裾野を広げる道であると考えます。話を戻しますが、コミケ関係者に聞いたところ発行数が 200 部なら、一冊 400 円でカラー表紙の 40 ページ製本が完成するそうです。これを 1000 円で 100 冊売れば印刷代とコミケ会場代がペイして、それ以上は発行したグループと原稿を書いた人の活動費、打ち上げ費用になるとのこと。読み流される商業誌に投稿するより、内容の濃い QRP 冊子を作るほうが、インセンティブも高いような気がしますがいかがでしょうか。この機に多くの会員から工夫・知恵出しを行い、それを実行に移して会報をよりよい物に、そしてクラブに活力を吹き込みましょう。



(写真1) ARCI の会報 QRP Quarterly (QQ)、季刊で60ページ以上、A4 レターサイズ。年間購読料は23USD、約2000円。中古QRP機やキットのレビュー記事など、担当エディタも多数で編纂される。QRP ベンダの広告やイベント報告なども満載されている。初めて読んだ時はその情報量と米国QRP層の広さ深さに圧倒される。



(写真2) GORP の SPRAT。季刊40ページ A5 サイズ。年間購読料は8ポンド約1200円。小規模回路やアンテナによるQRP製作と運用にフォーカスして会員の工夫を満載した小冊子。次号が届くまでいつもカバンの中に入れておきたい一冊で、読み応えとしてはページ数以上の満足感がある。

クラブ会員の皆さんへ はがきアンケートに関するお願い

役員会

会員の皆さん、昨年の4月に会長、副会長、事務局長、会計および監査役2名の体制で発足して、会員の皆様のご支援を頂きながら、1年目の“試行錯誤の活動”を続けてきました。先期からの懸案事項のひとつでもあった“会報の毎月発行”も会員の皆様からの投稿と事務局長の個人の献身的な会報編集努力により4/5月合併号より、何とか会報の毎月発行が継続されてきました。しかしながら、このような個人の献身的による会報の発行継続が何処まで可能かと同時に掲載された記事の内容に満足をしていただいているのかどうか、感想や反応の少ない現時点では判断が難しい状態です。このままの状態が継続しますと2年目の4月号以降の会報の継続的な発行が危ぶまれている現状を改めて御承知をください。

2月号には、大久保会長の巻頭言およびJL1KRA中島さんからのクラブの運用、特に会報の発行に関して改善案が掲載されています。ご覧になったクラブ会員の皆様からの忌憚のない“会報の発行”に関する建設的な改善案や会報の発行に協力していただける方の拳手をお待ちしています。

別途皆様へ送付いたします返信はがきに下記の点を重点にご回答ください。

- (1) 会報は、現状と同じ毎月発行、季刊(年4回)またはJARL QRP CLUB 準則、STANDING RULESの“第14条 本会は会報を年1度以上発行する”に基づき年に1度でもよい。
- (2) 第14条には、補足説明として次のように書かれています。「会員は活動状況を会報に発表できる。会報担当スタッフは会の趣旨に則り会報の編集を実施する。」それでは、会報の発行が少なくなった場合の活動状況の発表は、季刊(年4回)または年1度の会報の発行で本当に充分でしょうか? 会報担当スタッフとして、あなたは協力いただけますか?
- (3) 会報の発行が毎月でなくなった場合でも、会費は現状のままとしてクラブの更なる活動の運営費に使用する。または、会報の発行に合わせて会費は下げる。
- (4) その他
- (5) 特に、ご意見のない場合でも返信はがきは“特に意見なし”として投函をください。
- (6) 同封の返信はがきは、必ず2月28日の日付までに投函してください。(厳守)

猶、返信はがきでは、書ききれない提案やご意見をお持ちの方は、封書またはメールにて回答をください。

E-mail アドレス: qrpclub_hot_mail@jaqrp.org

以上、よろしくお願ひ致します。

QRPで遊ぼう (楽しいQRP)

編集担当 JA1BVA 齊藤 正昭

SAITO Masaaki



2009 年が到来しました。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今月は、CQ誌 1月号から得た情報と 7K1CPT 山田さんの「移動運用のすすめ」、そして私の昨年末の JD1 移動運用について報告します。

7メガ帯の拡張について

JA1BVA 齊藤正昭

既にお気づきの会員もあられると思いますが、CQ誌 2009 年 1月号に QRPer にとって重要な考えが掲載されています。概略、次の内容です(同号 60 ページの左段)。

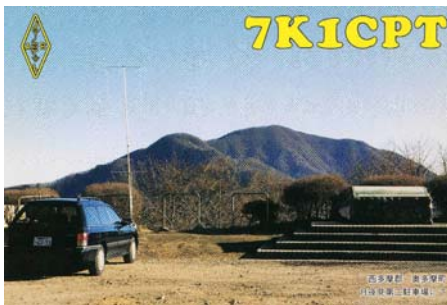
「わが国の QRP 周波数は 7003kHz であるが、第一地域では 7030kHz が指定周波数となっており、米国においては 7030/7040kHz が指定周波数となっている。わが国においてもこの周波数の利用を推し進めるのが良いような気がします」

この記述は記事の筆者(JK1OPL 局)の個人的な考えと思いますが、現在の 7003kHz を認めつつも、別の周波数への移行を促すような考えとも解釈できます。CQ誌に掲載されましたが、我々も考えておく必要があるように思います。

移動運用のすすめ

7K1CPT 山田清治

私が開局したのは C520 という FM ハンディトランシーバーでした。もともと無線や科学に興味があったわけではありませんでしたから、情報源となる雑誌や専門の本を読み漁りました。ホイップアンテナで受信できる範囲に限界を感じ、ペラダにモービルホイップ。そして GP へとグレードアップしていきました。それでも飽き足らず、山岳移動局の信号がいつも強く入感していることから、自分も山へ出かけてみようと思い立ちました。



アンテナ運用中の写真をを使った QSL

無線目的で初めて登ったのは八王子市の景信山でした。平日ということもあり、あまり交信は多くありませんでしたが、呼ばれる面白さを始めて感じた記念すべき日でもあり

ました。自分の第 2 送信機となった MX-21S にリニアをつけて、モービルホイップで運用していたときに 8 エリアの OM さんから「強力に入感していますね。ピコなら 2W でも充分交信ができそうですね。リニアを切って送信してください」といわれました。送信後に受信に移ると「7K1CPT/QRP RS-55 です。良好ですね。QRP でも十分に楽しめますね」と聞こえてきました。雑誌などで目にしているあまり気にしていなかった「QRP」という言葉が強く印象に残ったのはこの時だったと憶えています。なぜこの人は 10W でも良好に会話が成立しているのにあえて送信電力を下げてみなさいと言ったのだろうか?電波を弱くする QRP にどのような意味があったのだろうか?自分が QRP を主体とする運用になるとは思ってもみなかった頃でした。3 台目の無線機となる IC-726S(10W)を手に入れ、home には GP アンテナの CP-6 を立ち上げ、HF&6m の運用を始めますが、環境が悪かったのか調整がうまくいかなかったのか、やはりログは思うように進みませんでした。あつとこの無線機も車に乗せられ、仕事が休みのたびに見晴らしの良い・電波が飛びそうな場所を徘徊するようになりました。



6m SSBトランシーバ

このころはアンテナ設営の楽しさも考えて 6m の運用が主体となり始めました。6m の運用では山岳移動局を相手にすることが多くなります。無線機もピコを使っている局に出会うことも多くなり、たびたび「QRP」という言葉を耳にするようになります。自分も 6m のピコを手に入れ、昨年全国集会が行われた御岳山周辺や奥多摩・八王子などを回るようになりました。その頃は JARL の JCC アワードなどに同一都道府県での運用という縛りがあり、なるべく東京で運用しようとする場所が限られてしまいます。この縛りが同一エリア内と変わったときに運用に出かける場所もかなり広範囲に広がることとなりました。(アワードはいまのところ申請してはいませんが・・・)

ある時「ビギナーのためのトランシーバー製作入門」という本が出版されました。興味を持って読んでいたうちに実際に作ってみたいくなります。最初は 144MHz-FM 機、そして 6m-SSB 機を作りました。6m の運用は行っていましたが、数局できればよいだろうと思っていた出力 70mW のトランシーバーでしたが、見晴らしの良い場所に移動して CQ を出してみると、思いのほか呼んでくれる局がたくさんいます。最初の運用から満足感を与えてくれました。NYP をこのリグで行った時は、4 時間の間ひっきりなしに呼ばれ続け、喉が枯れて CL を宣言しました。ピコトランシーバーのさらに 1/10 以下の出力でこんな成果があげられるなんて、今までやってきたことは何だったんだろう?と自問自答してしまいました。このトランシーバーを持ったおかげで、その頃入会資格に「入力 1W 以下のトランシーバーを所持してい

ること」という QRP クラブの入会条件を満たすことができ、クラブのメンバーになれた、思い出の深いリグとなりました。移動運用は、home の限られた設備で運用するよりも大きな成果をもたらしてくれる可能性があります。もっとも、うまくいかなかったときにどうすればうまくいくか考え、それを実行できる広いスペースとロケーションが活用できます。車を利用できれば荷物の運搬が楽になりますが、もしそれができなくても、電車で移動したり、近くの公園まで自転車を使ってみるとか、徒歩で散歩のついでに無線機を持って出かけるなど、工夫次第ではできることはたくさんあると思います。移動運用で QRP を楽しんでみませんか？

JD1 移動運用報告

JA1BVA 齊藤正昭

昨年 12 月 14 日昼前、25 時間 30 分の船旅を終え、予定どおり父島に到着、民宿のお母さん手作りのお弁当をいただき、アンテナの設営開始。船に酔った妻は部屋で休憩。7 メガ用の GP アンテナ、3.5 メガ以下用の LW (43m 長)、ラジアルは 7~20m のビニール線を合計 10 本 (総延長 150m) を展開した。同日 20 時、7003kHz で CQ を 3 回。いずれも空振り。少し上に VK4PN の CQ をキャッチして、コールし、交信第 1 号となった。続いてコールしてくる局あり。なんとヨーロッパの RA1AOB 局。599、強力な信号だった。運用開始して 2 局で早くもオセアニアとヨーロッパを GET。JA は? と思い、2~3 局の CQ を呼んでみたが応答なし。どうなっているの???。こうして 6 回目の JD1 運用を開始した。翌 15 日は予定どおりの妻との徒歩観光開始。6 回目の父島の自然は見る度にその姿を変えている。JA との初交信は 16 日の早朝となった。この時もその終了後、RZ3QZ からコールがあり、特に DX 関係に情報を流している訳でないのに、良く聞いているな...と感心した。最初の 2WAY-QRP 交信は、17 日 10:29 の 7003kHz による JA2OP/QRP 青山さんとの交信であった。他のバンドの最初の 2WAY-QRP 交信は、3.5 メガでは JA2AIH/QRP (17 日 19:40) 1.9 メガでは JK1TCV/QRP (同日 20:25) であった。19 日は、父島の最高峰 (小笠原村の最高峰は母島にある) 中央山で運用。数回の CQ に最初に応答いただいたのが JE1CDW/1/QRP 大橋さん。大橋さんの信号を聴いて、うれしかった。山頂は陽射しはあるものの北風が強く、顔はボカボカ、背中が寒い、という中で運用でした。



中央山 (319m) で JE1CDW 大橋さんと交信

20 日はかねてから広報していた A1-CLUB の OAM に QRP で参加、キー局を努めさせていただいた。2WAY-QRP 交信は 7K4UBL 田中さんと JK1TCV 栗原さん、ともに QRO 局の混信の中にあってタイミングの良い FB なコール

でした。この OAM では合計 40 交信を記録した。



TGS-40C で QRP-OAM に参加中
混信からのピックアップは RIT が有効であった。

翌 21 日 (快晴) は QRP の OAM。予定どおり、JR3TGS 稲田さんの開発された 7 メガ CW の出力 1W トランシーバ TGS-40C で参加。予定時刻 08:00 にはヨーロッパのコンテストで 7003kHz 付近は大混雑。慎重に混信の少ないスポットに合わせ、CQ を出すと、混信の中にコピーできたのは 7K1 の 3 文字。しかし、自分がコールされた感じはしなかった。再度、CQ を出し、ヘッドホンに浮かんできたのが、JA4CFO/QRP 松尾さんの信号。RST は 479。JD1 からの QRP-OAM 第 1 号の交信となった。続いて、JJ2PEI、7K1CPT、JA1KGV、JH2NYZ の計 5 交信。ここでコンディションの低下が感ぜられたので、リグを 5W 設定の K2 に交換。JA4MRL 北尾さんから「お気をつけて、エンジョイして下さい」のメッセージをいただき、また、7K1CPT、JK1TCV の両局とは和文で近況報告? を楽しんだ。そして 09:33 の 7K4VQV 坪井さんとの交信を最後に QRP-OAM を終了した。合計 16 交信を記録した。OAM 終了後、TGS-40C の性能確認のため CQ を出したり、CQ を出す局をコールしたが、なかなか交信に至らない。QRP 局を含め 10 数局の CQ をコールしたが、1W 電波は届かなかった。が、ようやく 12 時前後に 3 局と交信でき、合計 8 交信となった。



右端: JD1BBH 山田さん
左端: 山田さんのご主人 (Diving service KAIZIN 代表)
二見港にて (撮影: JD1BLO 高岩さん)

ここで悩みの大きい QRT (運用終了) の決断の時が来た。いつものことであるが、東京へ帰る船の出港日には 11 時までには荷物を預けなければ、帰りの船には載らない。しかし、その日が雨にでもなれば早朝からのアンテナなどの撤収作業は悲惨な状態となる。以前、濡れたまま梱包したため、シヤックに到着したダンボールが中から濡れていることがあった。今回は家族サービスが目的だったので、天気の良い内の撤収を考え、即、実行に移した。こうして 14 日

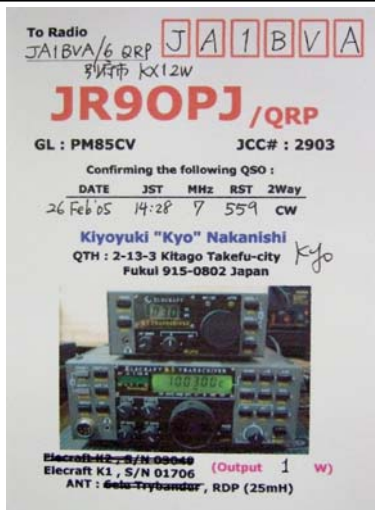
20時に開始したJD1運用は、21日12:40に133交信を記録してQRTした。夕方にはアンテナ、リグの梱包を終了し、民宿の車でヤマトへ運んでいただいた。あとは、妻との徒歩観光に専念した。途中、私の現役時代の教え子(故人)の実家を訪ね、お父上、瀬堀五郎平さんにお会いし、故人の遺影と23年振りに対面することができた。小笠原村最長老の五郎平さんは94歳。一人暮らしなるも、極めてご健健。父島の歴史、現状や島民の希望(早く飛行場を作って欲しい)などのお話を伺い、再開を約束してお別れした。

そして、最終日の24日、おがさわら丸出港の二見港棧橋では、現地局JD1BBH山田さんご夫妻の見送りを受け、また、JD1BLO高岩さん(JD1BLN局の奥様)からは妻に「レイ」をプレゼントしていただき、感激のお別れとなった。地元の局からこれほど歓迎される、本当にうれしかった。アマチュア無線を共通の趣味とした地元の人たちとの交流は、他の旅行者とは一味ちがう旅になると思います。

会員の QSL 紹介

JA1BVA 齊藤正昭

今月は JR90PJ 中西さんの QSL と JA6SZC さんのもう一つのコールサインの QSL をご紹介します。



中西さんは、多くの自作機で QRP にアクティブです



「サヨウナラ南那珂郡の会、焼酎争奪戦」の交信対象局の一人 JA5DIC (also:JA6SZC)川島さんの特製 QSL。

(焼酎争奪戦の詳細は、1月号をご覧ください)

アワード紹介

アワード担当スタッフ

JK1TCV 栗原 和実

KURIBARA KAZUMI



JARL QRP CLUB で発行していますアワードについて、昨年末に発行された JARL QRP CLUB DATA BOOK 2008-2009 にもありますように規約の改定と新アワードが発行されます。

簡単に規約の改定について、要点をまとめると、

1. 申請料が無料となる。
2. QSL カードの提出が不要で自己宣誓のみで OK。
3. 特記を付けることを明確化

となります。

詳しい規約については、JARL QRP CLUB DATA BOOK 2008-2009 をご覧ください。

また、新アワードについては、旧来ありました、QRP アワードは JARL QRP CLUB の会員との QSO で取得するという、ある意味の限定アワードでしたが、会員限定の垣根を取り払い、全ての QRP 局を対象にしたものです。そのため、より間口が広がったために、QSO (QSL) 数を従来の 5、10、15 局 (枚) から 10、50、100 局 (枚) にアップしました。

今回の新規約は、2009年4月1日より施行されます。

なお、アワードのデザイン変更も考えております。

具体的なデザインが決まりましたら、ご報告したいと思っております。皆さんからのアワードの申請を期待しております。よろしくお願ひします。

今月のアワードの発行は、ありませんでした。皆さんからの申請をお待ちしております。

コンテスト通信

JF6LIU/1 富樫 栄
TOGASHI SAKAE



昨年開催された JARL 主催 6m AND Down コンテスト、Field Day コンテストの結果が発表となりました。今回、QRP 部門において、参加数に対する QRP 会員の占める割合を算出してみました。

- 6m AND Down コンテスト
 - 電信 15.4%
 - 電信電話 4.2%
 - (合計 7.2%)
- Field Day コンテスト
 - 電信 26.3%
 - 電信電話 9.5%
 - (合計 15.8%)

電信部門が圧倒的に多く、Field Day コンテストでは約 1/4 が QRP 会員であることがわかります。また QRP 会員数に対する QRP 会員の占める割合は、6m AND Down コンテストで約 3%、Field Day コンテストで約 6%にとどまっております。

○電信部門シングルオペ QRP(部門 CP)

入賞 順位			
関東	9	JP1GTS	2,600
	12	JA1XWK/1	1,387
	13	7N4VPS	1,180
関西	2	JF3NAO/3	492

○電信電話部門シングルオペ QRP(部門 XP)

入賞 順位			
東海	7	JA1TAZ/1	13,113
	8	JQ2RBF	1,716
北海道★	1	JR8DAG/8	40

2008 年 6m AND Down コンテスト結果

○電信部門シングルオペ QRP(部門 CP)

入賞 順位			
全国 3 位★	3	JP6VCH/6	78,912
	6	7K1CPT/1	33,600
	7	JE1CAC/1	30,710
3 エリア 1 位★	10	JF3NAO/3	16,226
	12	JA6UG/6	14,832
	13	JA4MRL	8,844
	14	JG1UKW/QRP	7,552
	21	7N4VPS	3,900
	24	JE2FJ/2	1,488
	31	JP1GTS	666

○電信電話部門シングルオペ QRP(部門 XP)

入賞 順位			
全国 1 位 ★	1	JF6LIU/1	137,456
	11	JA1TAZ/1	14,760
	24	JD1BKW/1	3,360
	47	JL1PMH/1	288
	51	7M4DTQ/1	132
	57	JH1CIG	24

2008 年 Field Day コンテスト結果

* 2009 年 QRP CLUB DATA BOOK からコールサインを抜粋

2 月度 QRP 部門 コンテスト カレンダー

- 国内
 - なし
- 海外
 - Dutch PACC Contest
 - 14 日(土) 21:00 15 日(日) 21:00 (JST)
 - 1.8~28MHz SSB/CW
 - ARRL International DX Contest
 - 21 日(土) 9:00 23 日(月)9:00 (JST)
 - 1.8~28MHz CW

コンテスト担当スタッフ変更のお知らせ

この度、JF6LIU/1 富樫さんにコンテスト担当スタッフを引き受けていただけることになりました。

これにより、今まで 7L3DNX 竹野が担当していましたが、2009 年度からのコンテストについては、富樫さんに引継ぎを行います。これまでに無いよりユニークな楽しいコンテストが開催可能になると思いますので、ぜひお引き立てのほど宜しくお願い致します。

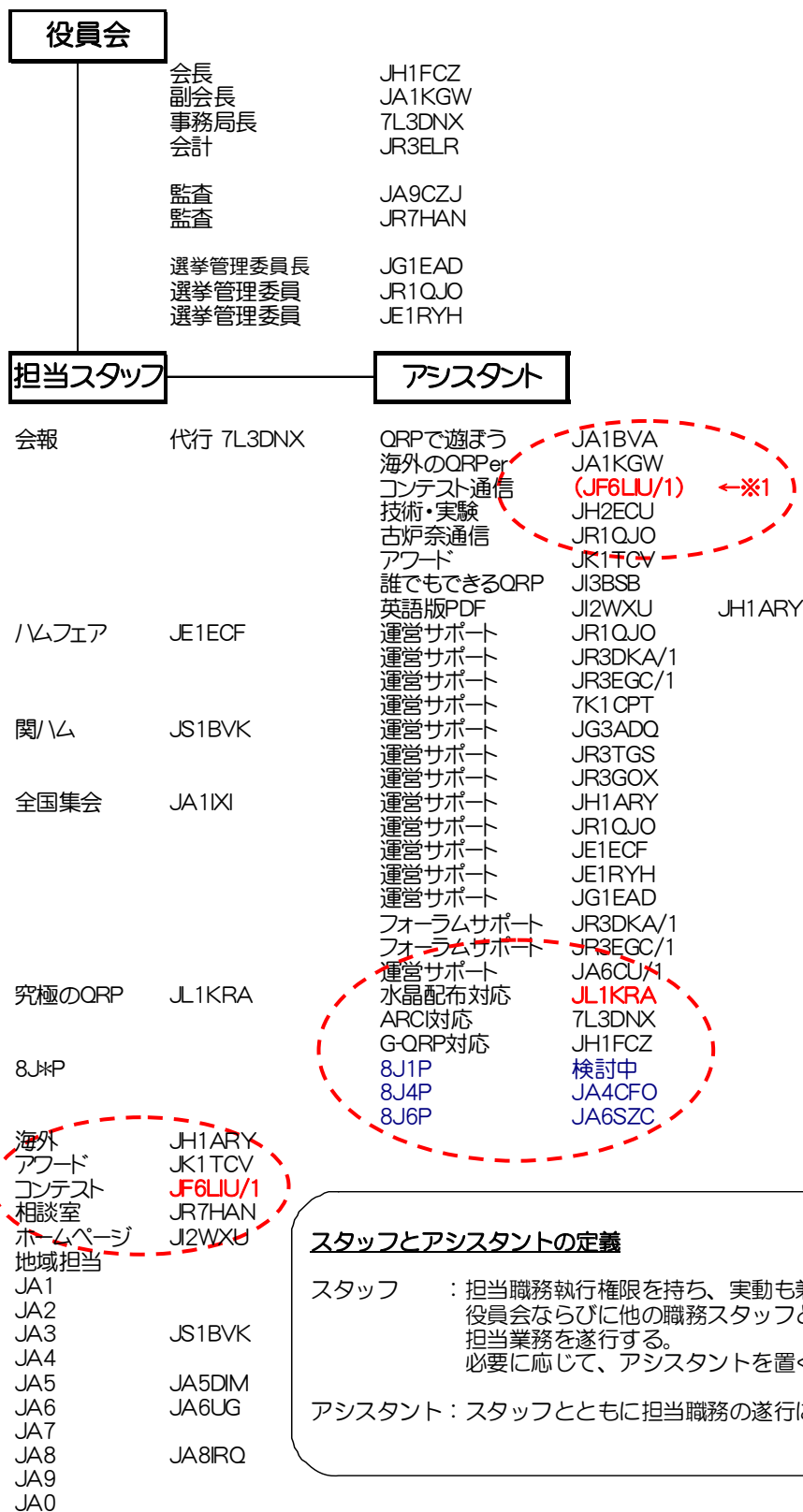
また、これに伴い、富樫さんに担当していただいておりますこの「コンテスト通信」コーナーは3月号を持って打ち切りとさせていただきます。富樫さんにはコンテスト担当業務に専念していただくこととしました。そのためこのコーナー自体は打ち切りとさせていただきますが、必要に応じて、皆様への情報提供はなんらかの形で行っていく予定ですので、併せて宜しくお願い致します。(次ページ参照)

最後に、今年度で開催しましたコンテストの結果につきましては、現担当の 7L3DNX が今年度中に処理を行い結果発表、表彰等を行いますので、今しばらくお待ちください。

(事務局)

JARL QRP CLUB 役員構成図

2008年度:1.2版 2009.1.14



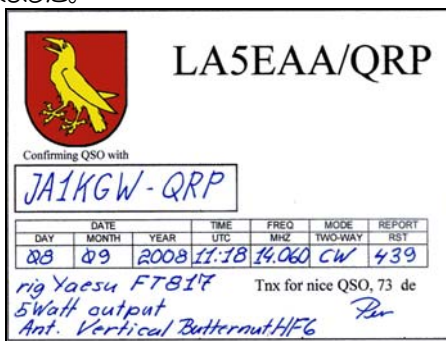
注:※1 : 基本的には打切となりますが、記事があり次第掲載を行います。

QRP な DX の世界から
海外の QRPer

JA1KGW 青山憲太郎
AOYAMA KENTARO



■キャンピングカー移動 QRV の LA5EAA/QRP, Per さん
2008 年 9 月 8 日は、20:00JST から22:00JST の約 1 時間の間に EU がオープンして、LA5EAA/QRP の Per さん、UR5EDG/QRP の Harry さん、HA7UG/QRP の Laci さん、RA1AQ/QRP の Alex さんおよび HA8LCA/QRP の Joska さんなど 5 局と QSO が出来ました。この内の LA5EAA/QRP、Per さんを紹介しましょう。
翌日、LA5EAA/QRP、Per さんから E-mail で次のようなメールが来ました。



Hello!
Thank you for the QSO today at 11:15 UTC. I will send you my QSL-card via the bureau. I was using a Yaesu FT 817 today with 5 Watt output. The antenna is a Butternut HF6 with ad on modules for 18 and 12 MHz. Sometimes I am also using a Sierra QRP transceiver with 2 Watt output, but the conditions has been bad lately.
Thank you for a nice DX CW QRP QSO, best 72 73.
Hope to meet you again on the band best 72 73.
Hope to meet you again on the band soon.
Best regards, Per Ole Myhre, LA5EAA

QSL カードと写真 2 枚が送られてきました。LA5WAA/QRP、Per さんが実際に運用していたキャンピング・カーの狭い内部の写真と綺麗に整頓整備されたホーム・シヤックの写真です。Per さんのリグは、Yaesu FT817、5Watts 出力を Butternut HF6 Vertical アンテナに給電していました。



DX 短信

JA1KGW 青山憲太郎 AOYAMA KENTARO

相変わらず、お空の様子は良くありません。昨年 12 月 16 日から2009 年 1 月 8 日までは、SSN がゼロでした。9 日の SSN が 14 となり翌日 10 日から 17, 20, 12, 11 となりましたが、14 日は、またまた SSN はゼロです。

御承知の通り、CQ誌 1 月号には、“2009 年の太陽活動とサイクル 24 下の電波伝搬”と題して NICT の宇宙環境計測グループの研究マネージャーの石井守氏が最近の状況について、判りやすく解説されていますが、今後の動向として“...諦めるのはまだ早いと思いますので、2009 年が太陽活動が活発になることを願って、もう少し気長に待つて見ては如何でしょうか。”が極めて印象的でした。

この期間、QRP QSO は、下記の通りです。現在、ローバンド (3.5MHz, 7MHz) は、アンテナが不調で QRV が出来ません。ローバンドで QRV されている OM からのレポートの投稿をお待ちします。

JA1AA 庄野久男

11 月には、ポツポツと NA との QSO ができ、パイルの中でも EU が聞こえていた 1.8MHz でも、今月はバツリとノイズばかりでした。JD1BLY-父島一境浦からの QSO も、EU 向けは 3.5MHz 中心ですばらしい J15PRT の QSO に聴きほれていました。QSL カードとアンテナはやっと昨年 5 月の BSTH の 14MHz ののみの淋しさで、「春遠からじ」と想い半冬眠を続けていました。

DATE	JST	CALL	HIS	MY	FREQ.	RMKS	RPT
2016/12/8	1515	RA6DX	539	559	18.086	FT840, 80W	JA1KGW
2018/12/8	1218	HL1WP	599	599	7.006	VIA	JA1AA
2020/12/8	700	KE7LKW/QRP	449	449	14.06	K1.5W	JA1KGW
2020/12/8	1655	I2ZBX	559	559	14.06		JA1KGW
2020/12/8	1715	F5LQ	579	589	14.009		JA1KGW
2021/12/8	635	K7TQ/QRP	559	559	14.06	5W, FORCE1	JA1KGW
2023/12/8	1625	LZ2RS	589	589	14.052	K3, 50W	JA1KGW
2029/12/8	725	KE7LOY	???	339	14.06	100W	JA1KGW
1930/12/8	1845	RX3RA	599	569	18.073	100W	JA1KGW
1931/12/8	715	N7EF/QRP	579	559	14.06	4W	JA1KGW
1931/12/8	1825	JD1BLY	599	599	3.506	父島	JA1AA
2001/1/9	1806	JD1BLY	599	599	7.004		JA1AA
2002/1/9	725	KD0BZT	589	589	14.059	CO	JA1KGW
2002/1/8	1933	RN1CR/0	599	599	3.502		JA1AA
2003/1/9	706	AK7A	579	569	14.06	OR	JA1KGW
2006/1/9	1521	XV9DX	599	599	18.04	VIA OM3JW	JA1KGW
2008/1/9	1640	RW9JZ	589	579	14.009	200W, 3CQ	JA1KGW
2009/1/9	1625	9A2009OS	599	599	14.017	記念局	JA1KGW
2009/1/9	1635	RK3BL	589	559	14.01		JA1KGW
2009/1/9	1648	YT5Z	589	559	14.06		JA1KGW
2009/1/9	2141	W7SW	499	339	7.01	KW	JA1AA
2010/1/9	1620	RV1CC	599	559	18.075		JA1KGW
2011/1/9	2048	HL0LPM/2	599	599	3.506	AS-105	JA1AA

古炉奈通信(懇親会顛末記)

JR1QJO 矢部 伊知郎

YABE Ichiro

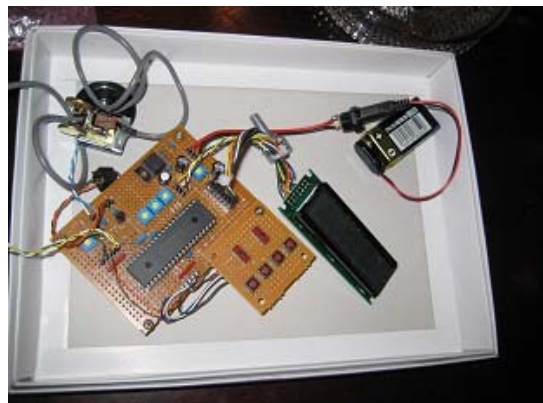


新年を迎えての初会合は第122回 QRP 懇親会兼新年会を1月17日に古炉奈の会議室にて開催されました。今年は春から縁起が良いと末広りの八つの自作品が持ち込まれました。

7L3DNX/竹野さんは昨年のデイトンで購入した半導体アナライザキットを完成させて持ち込みました。これは不明なトランジスタ、FET、サイリスタ、ダイオードの極性や hfe などの特性を表示する優れものです。古い半導体ストックのある工作室には大変便利なものです。また、回路もこれだけ多機能にも関わらずすこぶる単純なのに驚かせます。まさにプログラミングの妙です。



JK1TCV/ 栗原さんはネットからダウンロードしたプログラムと回路図作った LCD 付きのエレキーを持ち込みました。和文電信も扱えるとの由です。



JA1BVA/齊藤さんは最近キャリブレーションで発売したばかりの 40m CW transceiver キット「TGS40C」を作ってきました。このキットは有名な AD9834 DDS チップを使っていますがロータリーエンコーダーは使いません。なんと可変抵抗器をダイヤルに使い、電池を食う液晶や発光ダイ

オード表示機がありません。齊藤さんはキット初期の製作者で既に昨年の JD1 小笠原諸島のペディションで「実践試験」済みです。



JR1QJO/小生も箸休めならぬ饅休めに作った対数表示の電界強度系キットを頑丈なダイキャストに納めました。対数表示の為に AD8307 を使っています。近接電波が多いせいか絶えずメーターが動いています。



JE1ECF/斎藤さんは 6m のキットを改造した 15m DSB トランシーバーを持ち込みました。この新しいケースが冷戦時代に活躍したスパイ無線機に似て結構格好良く仕上がっています。



JH7KYD/ 影山さんはリグの消費電力監視用の大型メーターが 2 つあるので一見すると直流電源装置に見える 2m トータルパワーの試作品を持参しました。トランジスタを節約するために混成ヘテロダイン・超再生式受信部を

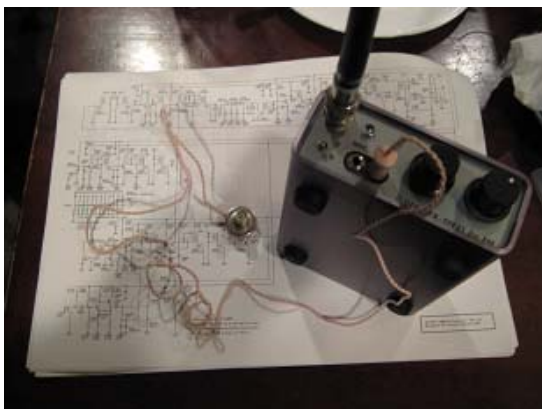
持ち、2つの送受信専用 VCO を実装しています。また5つの固定チャンネルと送受信独立した VFO を持っています。



JH1ARY/黒田さんは FPGA でこさえた 1MHz AM ワイヤレスマイクと受信機を持って来ました。回路は「プログラム」されているので部品数は極小です。正に驚異です!



JG6DFK/1 /児玉さんは完成版の 2M FM トータルパワー機を持参。どうやら児玉さんがリードしている様ですがまだ序盤なので多数の参加者が後を追っています!



2 次回は新年会を兼ねて何時もの「天狗」で夜遅くまでビール片手で無線談義を行いました。今年もまた多くの実りある活動に期待しましょう!72

会員通信



事務局 7L3DNX 竹野 巧
TAKENO Takumi

今月は JH4WUI 吉崎さん、JF6LIU/1 富樫さん、JN1SZF 田村さんより近況が寄せられましたので掲載いたします。

凧アンテナで QSO



JF6LIU/1 富樫 栄
TOGASHI Sakae (#753)

毎年、年末年始は家族で 6 エリアへ帰省しています。福岡県遠賀郡(おんがぐん)水巻町(みずまきまち)(JCG#40004/D)から、EQT-1(7MHz CW 100mW) + VCH アンテナでの運用や、山に登りハンディー機(144/430MHz 0.5W)で QRP 運用を楽しんでおります。年始には遠賀川(おんががわ)の土手で子供たちと凧揚げを楽しむのが恒例となっています。

毎年、凧揚げをしていて「凧にアンテナをぶらさげて QRV してみたいなあ〜」という思いから、急遽帰省先で線材(電線 0.5SQ)を購入、凧の下部中央部分からぶら下げることにしました。今回使用したバンドは、凧揚げができる時間帯かつ昼間最も賑やかな 7MHz とし、アンテナの長さは GP と同じ 1/4λ(10m)、アース線(10m×5 本)。RIG には FT-817 に Elecraft T1 チューナを併用。線材は T1 チューナの BNC へ直に接続し、外れないようテープで固定するようにしました。



運用の様子

・元旦(木) 夕方天候は曇り、かなりの強風、風が冷たい。使い物になるか早く確認したいなあ。また親戚の子供たちも早く凧を揚げたがっていたので遠賀川の土手に向かう。凧は市販品のゲイラカイトと呼ばれているものを使用。土手は前日のあられの影響で水溜まりが多く、草地では RIG 等が濡れてしまう可能性があるため、やむを得ず休憩場付近の水溜まりがないところで凧を揚げることにしました。凧にぶらさげた線材が RIG の真上にくるように子供たちが凧の位置を調整。風が強くと凧が左右に揺れる中、チューニング。建物の影響で SWR が気になりましたが、T1 チューナが緑色(SWR 約 1.0 に近い状態)となり、まずは一安心。

早速ワッチしてみる。DP アンテナと同じくらい賑やかに信号が入ってきました。しかし、人工ノイズが S8 まで振っており、おまけに風が暴れているためかコンディションのせいか QSB は激しい。待ちに待った CQ(CW)を出してみることに。しばらくすると 1 エリア(横浜市中区)からコールバック。こちらは 5W でしたがお互い RST 559 でした。QSO の途中、風が急降下しヒヤッとする場面がありました。墜落には至りませんでした。この日は 1/2/6 エリアと 7 局 QSO することができましたが、その後数局からコールバックがあったと思われるも完全にノイズで埋もれてしまい、キャッチできなくなりました。また急激に冷え込み、手もかじかみ、更にあられも降り始めたため撤収。風アンテナで QSO できた喜び、実感を味わうことができました。

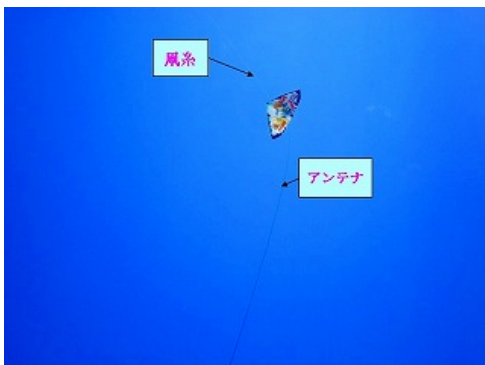


風アンテナをぶら下げている様子 その 1

・2 日(金)午前中みぞれ時々曇り
NYP に参加。毎年山に登りハンディー機片手で QRV していましたが、今年は朝からみぞれで断念。144/430MHz は、10m の釣竿の先にモバイルアンテナを固定し家から参加しました。お馴染みの局とラグチューも入り無線談義に華が咲きました。

・2 日(金)午後一時晴れ
晴れてきたので、再び土手へ遊びを兼ねて風揚げに行くことにしました。元旦は子供に風糸を引っ張ってもらっていたのですが、今回はクイを打ち込み固定することにしました。弱風で風はある程度一定方向になびいていましたが、時々強風となり左右に暴れ、この時は多少の QSB を伴いました。この日は 1/2/6 エリア 4 局 QSO できました。

・3 日(土)朝から日本晴れ
土手で遊ぶことにしたのでまた風を持って土手に行きました。平地ではほとんど無風だったので風が飛ぶのか心配しましたが、到着してみると土手では弱風があり、2 日と同じ方法で風を飛ばすことができました。この日は、一番風が安定しており、空中停止(ホバリング)した状態が長く続きました。この日は 1/2/5/6/7/0 エリア 9 局 QSO できました。



風アンテナをぶら下げている様子 その 2

今回、風アンテナを実験してみて、風が安定していると十分実用になることが分りました。やっていて楽しく、子供たちと一緒に風揚げもでき一石二鳥でした。風糸をアンテナにしないで風糸とアンテナを分離し、風を安定に揚げるために角度を持たせ、アンテナから地面に対し垂直にしたことで効果がありました。「マルコーニ(Marconi)の大西洋横断通信実験(1901 年)」でも、アンテナが強風によって倒壊し、急遽風にアンテナをぶらさげて成功を納めたとあり、今回の実験は規模が小さいものの、このような感じだったのであろうなあと思いました。来年は他のバンドかまた違った形で風を利用してやってみたいと思います。

今年の1stQSOはオーバースーで幕開け

JH4WUI 吉崎 秀一 (#799)

今年の1stQSOはなんと1/5のオーバースーで幕開けです。岡山人のオーバースーは小豆島ですが、大陸の DT0ID と QSO できました。

設備は、7MHz CW 150mW (貴田電子のKEN-TX7 定格出力は500mWですが、入力電圧が低いので150mW です)と DAH式ANT1号機 と伊豆野さん手作りのパドルです。パドルに手持ちのワンチップエレキーを組み込んで、パドルの試験のためコールしたところ、何度もテールレターのミスで「トライ」がありましたが、なんとか「I」と認識していただきQSO成立しました。

150mWの1stQSOは数十mの伊豆野さんとのQSOですが、一気に数百kmの長距離QSOです。

今年も、ほちほちと QRP QSOを楽しむことができればと思っています。

ANTはわかりにくいですが5階のベランダから突き出したものです。



リグの周辺も中身もごちゃごちゃですが、これだけで電池での屋外運用も可能です。



(リミットスイッチがパドルです..)

パドルは、伊豆野さんから完成したよ~ってメールでいただいた写真です。



中をあけてびっくり、さすが伊豆野製作所でした。。

72

BV2BJ Larry Lai さんから新年のご挨拶

JN1SZF 田村宏一

TAMURA Hirokazu

田村です。

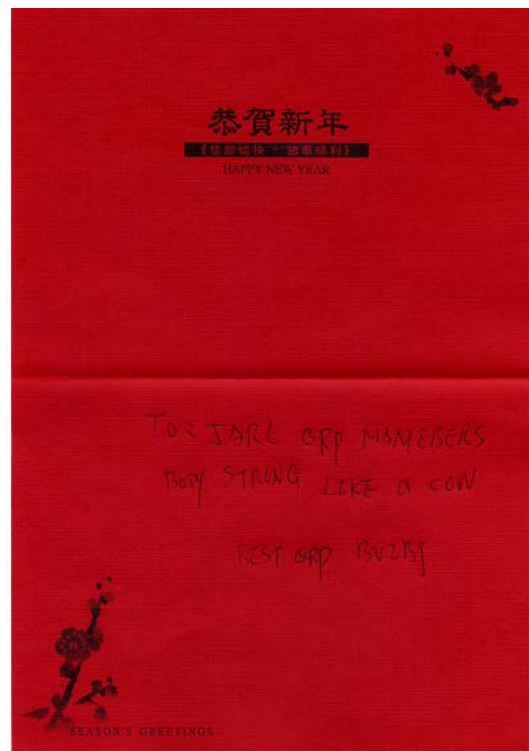
今年もどうぞよろしくお願ひします。

BV2BJ Larry Lai さんから新年のご挨拶がとどきましたので、送ります。メンバーへのメッセージもあります。

今年、無線が沢山できるといいですね。

--

de JN1SZF 田村



今回の3件のうち先の2件の投稿につきましては、本来「QRPで遊ぼう」のコーナーへ掲載するのが適切かと思われましたが、編集の時間等の都合により、会員通信としてこのページへ掲載させていただきました。ご了承ください。(編集担当)

役員会便り

事務局 7L3DNX 竹野 巧
TAKENO Takumi



We appreciate for your help!!

■懸案事項処理状況

- (4) スタッフ間MLの実施、会員専用MLの作成
(9) 会報取りまとめ専任スタッフの募集
(10) コンテスト開催担当スタッフの募集
- (11) 来年の特別記念局 8J*P の計画立案、手続き
→ 運用希望は2つのエリアからのみ
→ 1エリアも再度検討中(手続き上間に合うか)
- (12) データブックの発行 → 完了
→ 12月中旬に発行予定
- ということで、ここにきてかなりの案件を片付けることができましたが、(9)についてはぜひ会員の皆様の中から担当をしていただける方を継続して募集しております。ぜひ主体的なご協力をお願い致します。ご協力いただける方は事務局までご連絡を頂ければ幸いです。(事務局)

■役員協議会開催(1月18日)

以下の議題について、役員協議会を開催しました。個々の議論の内容、決定事項につきましては、別途については、必要に応じて、会報等で広報いたします。

- (1) 会報の発行について
→ 今後2ヶ月間で方向性を定める
→ 2月号で業務集中により継続が困難な点を会員に公表し、会員からのフィードバックをもらう。
(別途往復はがきにて、全会員へ問いかけを行う)
- (2) 現在の事務局の仕事の縮小
→ 最悪会報の休止もありえるが、(1)によるものとする。
- (3) 記念局のクラブとしての扱いについて
→ 副会長がJARLへ問い合わせを行い明確化する。
- (4) 8J1P の運営について
→ 神奈川県支部長へ間に合うかコンタクトする。
クラブとしての扱いは(3)に準ずる。
- (5) スタッフのメンバーリスト作成について
→ プライオリティを下げているが、今後進める。
- (6) 7MHz 帯の拡張に伴う QRP 周波数の要望
→ 7.040, 7.030 をQRP周波数として認知してもらえるよう会長から要望を出す。
- (7) クラブのロゴについて
→ 現在のロゴに決定した経緯を確認
- (8) コンテスト担当スタッフ変更について
→ JF6LIU/1 富樫さんをお願いすることです承。
- (9) データブックの今後の発行について
→ 会報、ホームページの今後の方向性とあわせて検討する

以上 (事務局)

■QRPクラブのロゴについて(ご参考)

一部の会員の方からもっと魅力あるロゴにならないのだろうかというご意見をいただきましたので、現在のクラブのロゴがどのようにして決定したのかということを再度確認しました。詳細は、50周年記念誌に掲載されていますが、簡単にご紹介をさせていただきます。



現在のクラブロゴ

クラブロゴの歴史は、クラブの歴史に比べればまだ浅く、その決定までの経緯は以下の通りです。

- (1) 1994年 7月
JA9CZJ 松盛氏の提案により、クラブロゴを作る話が上がり、会員から公募を実施。
- (2) 1994年 11月
25点の提案が集まる。
- (3) 1995年 1月
25点について全会員による投票を実施。最多票を獲得した JS1BVA 山田哲夫氏の現デザインに決定となった。

現時点では、このマークを変更することの必要性については、さらなる会員の方のご意見が必要と考えます。

(役員会)

■ホットライン

会員と役員会を結ぶホットラインを開設しています。ご意見、ご要望、ご提案、情報提供、会報への投稿、何でもお気軽に以下のアドレスまでご連絡ください

アドレス: qrpclub_hot_mail@jaqrp.org

■会報編集の効率化のためのお願い!!

投稿原稿を電子データにてお送りいただく場合、文章中の英数字はすべてにおいて必ず半角英数字を使用してください。また、カタカナについては必ず全角文字の使用をお願いします。(編集担当)

QRP 懇親会のご案内

新宿懇親会プロジェクト担当
JR1QJO 矢部 伊知郎
YABE Ichiro



日時: 2月7日(土)16:00-18:00
場所: 炭火珈琲庵「古炉奈」(地図参照)
千代田区外神田 1-14-3
秋葉原デパート並び電波会館 2F
電話: 03-3251-5359
お問合せ: JR1QJO 矢部 伊知郎
E-mail: ichiro_yabe@nifty.com
*この懇親会はどなたでもご参加いただけます。



編集後記

7L3DNX 竹野 巧 TAKENO Takumi

昨年4月に事務局長に任命されてから早くも1年が経過しようとしています。

さて、この会報についてですが、内容も充実したものをとを考えてやってきました。振り返ってみれば、一部を除いて投稿によって成り立っているとは考え難く、これは皆さんが寄せ書きして作成するコミュニティ誌としての会報ではなく、新聞や雑誌と同じくスタッフが記事を取材、あるいは創作して発行しているものと同じです。これでは、ボランティアであるスタッフや役員が延々と継続していくのは困難です。スタッフが色々と考えて記事を作成することは、そのスタッフのアピールの場にはかならないわけで、最近流行の個人のブログを読んでいるのと大差はありません。会報の中身は皆さん会員がコミュニケーションを取る手段であってしかるべきであり、活動の記録であるべきだと思います。

そもそも会報自体が、収益のための販売目的で作られているものではありませんので、一般に書店に並ぶような雑誌と同じ内容である必要もありません。

インターネット上では、会報とは離れて活発に書き込みや発言をされている方も多くいらっしゃると思います。し



かし、会報については、投稿も感想もほとんどないというのが現実です。従って「会員の声」というコーナーそのものが成り立たないわけです。そのような状況でこのような会報がいくら発行されても、特定の執筆担当者の満足にしかならず、会員の情報交換の場としてはとてもなりえないのが現状なのです。さらに情報量はインターネットのほうが会報などに比べれば格段に多いわけです。双方向のコミュニケーションを目指してはじめて新体制ですが、この現状は、結局のところ一方通行と言わざるを得ません。

インターネットという便利なものが出来たことによって、タイムリーな情報交換ができるようになり、また個人が情報を発信することも容易くなりました。このような状況では会報は時代遅れともいえるかもしれません。しかし、この波に乗ることが必ずしも良いとは言いきれません。貴重な個人のノウハウや成果もネットで配信したら瞬く間に広がります。従ってインターネットには手を出されない方もいらっしゃると思います。会報もPDF化を行ったため、電子データになってしまいました。そういったことも会報への投稿を躊躇するのを助長しているのかもしれない。

さて、皆さんは、「この会報に本当に満足しているのでしょうか?」「後で読み返してみたいと思うものですか?」「毎月ポストに届くだけで満足し、実は封も切っただけでどこかに積み上げられていたりしませんか?」(Tak/7L3DNX)

投稿募集

会報へのお便り、投稿は郵送、またはE-mailで以下の宛先までお送りください。

竹野 巧 7L3DNX

〒211-0042 川崎市中原区下新城 3-7-3-504

E-mail: naf01266@nifty.com

また、直接会報スタッフへのご連絡も歓迎いたします。会報への投稿締め切りは毎月15日です。

会費振込先

入会金(再入会時必要) 1,000円(高校生以下半額)

会費(継続の場合も同様)

会報紙会員年額 4,000円(家族、高校生以下 2,000円)

会報PDF会員年額 3,000円(家族、高校生以下 1,000円)

会費振込先(郵便振替)

加入者名: JARL QRPクラブ 口座番号: 00170-5-15853

注意: 通信欄に「新規入会」、「再入会」、または「継続」と明記の上、希望会報の種類(紙またはPDF)を明記し、会員番号(継続会員及び旧会員)、コールサインとPDF希望者はE-mailアドレスを忘れず、必ず明記してください。

継続会費の払込は、毎年4月1日~4月30日の期間にお願いします。

発行人 大久保 忠 JH1FCZ

発行所 JARL QRP CLUB

ホームページ: <http://www.jaqrp.org/>

事務局 竹野 巧 7L3DNX

〒211-0042 川崎市中原区下新城 3-7-3-504

E-mail: naf01266@nifty.com

会報印刷所 石川県身体障害者福祉工場

(社会福祉法人 石川サニーメイト)